

独立旅団

第一砲兵隊
高射砲隊
工兵隊
通信隊

14

昭和三十一年一月十六日

戦史資料

獨立混成第五旅團第一砲兵隊

大隊長 陸軍大佐 吉田治作

21. 24

陸軍 21. 24

0364

一、編成裝備關係

八、獨立混成第五旅團第一砲兵隊編成表(昭十九、一、三、五調)

隊別	區別	將校	准士官	下士官	兵	計
本部		八		一〇	四六	六四
第一中隊		四	二	一〇	八一	九七
第二中隊		四	二	一〇	八一	九八
第三中隊		四	二	一〇	八一	九八
計		二〇	六	四〇	二九三	三五四

第一中隊昭和十九年三月三十一日獨立歩兵第三三六大隊=配屬北部水曜島
 第二中隊同年月同日獨立歩兵第三三六大隊=配屬全曜島
 第三中隊同年月同日獨立歩兵第三三六大隊=配屬北部水曜島
 本部及第二中隊(直轄)同屬歩兵部隊、共=南部水曜島、牛嶺、任、不
 第三中隊一小隊ヲ獨立歩兵第三三七部隊ニ配屬月曜島

配屬部隊

配屬部隊名	區別	將校	准士官	下士官	兵	計	配屬機關
獨立歩兵第三三六大隊第一中隊		四	二	一九	七五	一〇〇	獨立歩兵第三三六大隊
獨立歩兵第三三六大隊第一中隊		二	二	二一	七五	一〇〇	獨立歩兵第三三六大隊
獨立歩兵第三三六大隊第一中隊		三	四	四二	六三	一一二	獨立歩兵第三三六大隊
獨立歩兵第三三六大隊第一中隊		一		四	二〇	二五	獨立歩兵第三三六大隊
獨立歩兵第三三六大隊第一中隊		一		四	一九	二五	獨立歩兵第三三六大隊
獨立混成第五旅團第一砲兵隊		三	一	八	四〇	五二	獨立混成第五旅團
第五十二師團戰車隊一小隊		一	一	七	三二	四一	第五十二師團

第一砲兵隊將校職員表

職名官等氏名		第一大隊		第二大隊		第三中隊	
職	名	隊長	佐	隊長	中	隊長	中
大	少	吉田治作	吉田治作	中	中	大	中
尉	尉	道津利吉	道津利吉	尉	尉	尉	尉
副	官	井上庫二	井上庫二	尉	尉	尉	尉
副	官	大塚忠次郎	大塚忠次郎	尉	尉	尉	尉
連	給	大石武志	大石武志	尉	尉	尉	尉
部	給	鈴木清	鈴木清	尉	尉	尉	尉
通信	掛	八木貴吾	八木貴吾	尉	尉	尉	尉
軍	醫	藤田憲雄	藤田憲雄	尉	尉	尉	尉
主計	計	藤原貞雄	藤原貞雄	尉	尉	尉	尉
中	隊	北	北	尉	尉	尉	尉
附	中	佐賀邦雄	佐賀邦雄	尉	尉	尉	尉
附	中	安増弘	安増弘	尉	尉	尉	尉
附	中	橋良胤	橋良胤	尉	尉	尉	尉
附	中	沖正義	沖正義	尉	尉	尉	尉
附	中	石倉豊	石倉豊	尉	尉	尉	尉
附	中	長谷川正磨	長谷川正磨	尉	尉	尉	尉
附	中	中山正磨	中山正磨	尉	尉	尉	尉
附	中	工藤哲郎	工藤哲郎	尉	尉	尉	尉
附	中	石川東一	石川東一	尉	尉	尉	尉
附	中	坂口大雄	坂口大雄	尉	尉	尉	尉

陸軍

昭和十四年十二月 陸軍部

0366

西原部隊將校職員表(南部水曜島準備隊)

品名	目負数	品名	目負数	備註
九四式山砲	三	九式輕機閉銃	三五	一昭一九六月四一式出 二昭三式速射砲(三九三 式重機(三九三式速射砲 二)增加三式
四一式山砲	一	八九式重擲彈筒	五一	二昭增加三式
四三式速射砲	四	輕擲彈筒	二	一昭九九月三式速射 砲(三式重機(三式速射 砲)增加三式
三七式速射砲	四	二式擲彈器	七	九三式重機(三式速射 砲)增加三式
九七式步兵砲	四	〃	六	〃
小迫撃砲	二	九九式短小銃	三四	一昭二〇三月四七式速 射砲(三九三式步兵砲 增加三式
九三式重機閉銃	一	九九式短小銃	六	〃
九五式重機閉銃	四	〃	六	〃
兵器彈藥概況(終戦時現在)				
第五師團野戰隊第三隊	中隊長	鈴木武志		
獨立步兵第三十六隊	中隊長	小野寺道助		
獨立步兵第三十六隊	中隊長	加藤大郎		
獨立步兵第三十六隊	中隊長	永沼煥太郎		
獨立步兵第三十六隊	中隊長	山田正		
獨立步兵第三十六隊	中隊長	森野喜次		
獨立步兵第三十六隊	中隊長	赤島幸三		
獨立步兵第三十六隊	中隊長	兒島武雄		
獨立步兵第三十六隊	中隊長	菅原徳雄		
獨立步兵第三十六隊	中隊長	水村俊一		
獨立步兵第三十六隊	中隊長	板倉徳雄		
獨立步兵第三十六隊	中隊長	名官等氏		

昭和十四、十二、鐵監納

人員兵器増減関係		期		間		將校以下人員數		増同		減上	
自昭和十九年三月二十五日	至昭和十九年六月二十四日	三	一	三	一	三	一				
自昭和十九年六月二十四日	至昭和十九年八月十八日	三	一	三	一	三	一				
自昭和十九年八月十八日以降		四	三	四	三	四	三				
自昭和十九年十一月十五日	至昭和二十年三月二十五日	四	一	四	一	四	一				
昭和二十年三月二十五日以降		四	六	四	八	四	五				

兵器種別	自三月二十五日	自六月二十四日	自八月十八日	自十一月十五日	自三月二十五日	自三月二十五日	終戦時
九四式山砲	三	三	三	三	三	三	三
四一式山砲		一	一	一	一	一	一
四七式速射砲	二	二	二	二	二	二	二
三七式		二	四	四	四	四	四
九七式歩兵砲					四	四	四
九九式迫撃砲	四	九	一	一	二	二	二
九二式重機関銃					一	一	一
九五式車載重機					四	四	四
九九式輕機	一	三	三	三	二	二	二
八九式重擲彈筒	一	四	五	五	五	五	五
輕擲彈筒			二	二	二	二	二
二式擲彈筒			七	七	七	七	七
一〇式		六	六	六	六	六	六
九九式短小銃	二	二	二	二	三	三	三

備考、準備隊ハ混成部隊ニテ數度ノ編成変更ヲ實施シ見テ
 以テ若干ノ差異アリ、
 又、台湾人、鮮人、現地住民使役ノ關係
 台湾人、鮮人關係ナシ

昭和十四、十二、鐵監納

現地島民

上陸當初歩備隊ニ於テ生野菜栽培ノ爲約三千名程度使役
 五月以降主要道路(海岸道)補修整備ノ爲毎日(水曜日除)延
 四五十名ヲ使用ス八月以降糧食補給杜絶ノ爲部隊現地自活
 強化セシム島民主力ヲ使用甘藷栽培ニ従事セシム(延一日(口名)程度)
 九月以降島民兵士ニ約十五名程度使用陣地強化(主トシテ道路
 構築)ニ使用ス尚島民ノ思想動向ハ一般ニ温順ニシテ自
 軍ニ対シテ信賴ノ念厚ク克ク部隊ノ命令ニ服シ黙々トシテ
 行動シ其ノ成果大ナルアリ

二部隊履歴ノ概要

昭和十九年二月二十二日陸軍機密第百號ニ依リ臨時編成下令
 同 年二月二十五日編成完結

同 年三月二十五日獨立混成第五十旅團長陸軍少將
 伊集院兼信 隷下ニ入ル

同 年二月二十五日獨立混成第五十旅團長陸軍少將
 伊集院兼信 隷下ニ入ル

同 年二月二十八日南海派遣ノ爲羅南出發
 同 年三月 三日輸送船對馬丸ニ乗船釜山港出發
 途中對潛射空監視ヲ嚴ニシテ一路自
 的地名南洋群島トシテ諸島七曜島
 ニ上陸

同 年三月二十五日上陸同島歩備ニ任ス西地区作命甲第一
 號ニ依リ本部第二中隊ハ配屬歩兵部隊
 ノ含メ南部水曜島歩備ニ任ス

同 年三月二十五日西地区作命甲第一號ニ依リ第一中隊ヲ獨立
 歩兵第三三八大隊ニ配屬第三中隊(一隊欠)
 ヲ獨立歩兵第三三六大隊ニ配屬

昭和十四、十二、陸軍部

陸軍

第三中隊一中隊 獨立歩兵第三七六隊 配屬

昭和十九年三月二十五日

同 年三月三十一日

第二次トカラ島附近 戦斗ニ参加

同 年四月一日

第三次トカラ島附近 戦斗ニ参加

同 年五月一日

同 年五月二日

第四次トカラ島附近 戦斗ニ参加

同 年五月三十一日

同 年六月三日 昭和十九年軍令第五八號ニ依リ復歸下令

同 年六月三日 臨時編成(改正)下令

同 年六月七日 復歸完結

同 年六月七日 臨時編成(改正)完結

同 年六月一日 第五次トカラ島附近 戦斗ニ参加

同 年六月三十一日

同 年七月一日 第六次第七次トカラ島附近 戦斗ニ参加

同 年七月三十一日

昭和二十年一月一日 第八次トカラ島附近 戦斗ニ参加

同 年六月三十一日

同 年七月一日 第九次トカラ島附近 戦斗ニ参加

同 年八月三十一日

同 年八月三十一日 配屬部隊原隊復歸ス

同 年八月三十一日 待命業務ニ従事

昭和二十一年一月四日

同 年一月五日 トカラ島出発 LST 502号

同 年一月十四日 浦賀港ニ上陸

同 年一月十七日 馬堀牧舎所ニ入所復員完結ス

同 年一月十六日 一部トカラ島上陸

同 年一月十六日 横須賀牧舎所ニ入所復員完結ス

昭和十四、十二、鐵整納

三、指揮隷屬關係其變遷ノ概要

昭和十九年二月二十一日臨時編成下令セシニ二十五日完成三月三日
獨立混成第五旅團長ノ隷下ニ入リ三月二十五日七曜諸島上陸ノ
同時南浦水曜島準備任務ニ服シ左記部隊ヲ配屬セシメ
爾後混成部隊ニテ再ニ軍隊区分ヲ變更セシ

機銃中隊一十隊

又

自昭和十九年六月二十五日
至昭和十九年八月十八日

獨立混成第五旅團第一砲兵隊本部

第二中隊

獨立歩兵第三四一大隊第一中隊

第三六六隊第一中隊一十隊

機關銃中隊一十隊

又昭和十九年八月十八日以降

新ヲ獨立歩兵第三四一大隊第二中隊

自昭和十九年十一月十五日
至昭和十九年十一月十五日

第三中隊

獨立歩兵第三四一大隊第一中隊

第三四〇大隊第一中隊

第五十二師團戰車隊一十隊

5、昭和二十年三月二十五日以降

新ヲ獨立混成第五旅團第一聯隊第三大隊歩兵砲中隊

6、終戦ノ同時ニ配屬部隊ニ軍所屬部隊ニ復歸爾後

人事關係事項ヲ除外再ニ區處下ニ入リシ人元

(現地自治ノ爲)

三、指揮隷屬關係其支遷ノ概要

1. 上陸當初 自昭和十九年三月二十五日
至昭和十九年六月二十四日
獨立混成第五旅團第一砲兵隊本部
第二中隊

獨立歩兵第三三六大隊第四中隊(改正前)

第一中隊 一十隊

機関銃中隊 一十隊

2.

自昭和十九年六月二十五日
至昭和十九年八月十八日

獨立混成第五旅團第一砲兵隊本部

第二中隊

獨立歩兵第三四一大隊第一中隊

第三六六大隊第一中隊 一十隊

機関銃中隊 一十隊

3. 昭和十九年八月十八日以降

新々 獨立歩兵第三四一大隊第二中隊

4. 自昭和十九年十一月十五日
至昭和二十年一月十五日

獨立歩兵第三三九大隊第一中隊

第三四〇大隊第一中隊

第五十二師團戰車隊 一十隊

5. 昭和二十年三月二十五日以降

新々 獨立混成第五旅團第一聯隊第三大隊歩兵砲中隊

6. 終戦ノ同時ニ配屬部隊ニ屬部部隊ニ復歸爾後

人事關係事項ヲ除外再々區處下ニ入テ人元

(現地自治ノ爲)

四 作戰準備關係

1. 作戰計畫、概要

防禦方針、同配備要圖別紙第一、如之

2. 陣地、狀況

a. 第一期

自昭和十九年三月二十五日
至昭和十九年八月二十五日

3. 起工時期

昭和十九年三月二十五日

4. 構築陣地數

所要材料數

主 山砲陣地

三 也ナント岩門 三〇袋

速射砲陣地

二 〃 〃 二〇〇袋

重機関銃陣地

四 〃 〃 一〇〇袋

輕機関銃陣地

一、二 〃 〃 五〇袋

野戰陣地、所持火器數、倍數ヲ構築ス
砂、砂利等、現地物資ヲ利用ス

鉄筋、記錄所持セザルヲ以テ不測

崩壁及天井共ニ厚サ二〇、五〇程度及上層ハ

約五〇握、一末土ヲ以テ被覆ス

ハ完成時期

陣地

六月末ヲ以テ主陣地完成ス

障礙物

七、八月、九月、十月、十一月、十二月、一應撤去ス

強度

主陣地構築ニ使用セル也、長途輸送ニ依リ

困抱材料破、且集積所、備不充ナル為メ

風化ニ素質一般ニ不良加ヘテ現地、砂ハリ、ソ、砂

ナルヲ以テ、強度ハ築城教範ニ示ス數字ノ三分一、

四分一、ナルモノト思料ス

障礙物ニ使用セル材料、主として、現地産、柳、材

ニテ、水ニ弱ク、水中障礙物等ハ構築後、保持

昭和十四、十二、鐵監納

日教 僅之教 昭和十九年八月二十五日
昭和三十九年八月二十五日
昭和三十九年八月二十五日

長第三期
マリアナ作戦終了後、之が戦訓を鑑み、既述ノ水際一線陣地ニテ、防禦ノ完璧ヲ期シ得ル状況ニテ、タルヲ以テ防禦方針ヲ、従来配備ニ変更、陣地モ主要火器ハ之ヲ岩盤、洞窟、崖陣地ニ改メ、八月二十五日迄ノ工事ニ着手シ、爾後晝夜兼行ノ工事ノ完成ニ邁進セルモ、

材料ノ入手困難、輸送ノ杜絶ニ依ル食糧不足等悪条件加ハリ、且又九月以降ノ主食ノ自給ニ一部兵力ヲ轉用セタルノヤリナキニ至リ、益々其ノ困難性ハ倍加シ、終戦當時ニ於テ、主要火器ノ射撃ノ設備ヲ完成（重機以ヒ）シタルノミナシ、彈薬糧食等ヲ格納シ得ル域ニ達セズ、
交通壕同路（機動路）戦車断崖等モ作業努力

不足ノ計画、約三分ニ程度ノ撤収ニ止マル。
不起工時期 昭和十九年八月二十五日

四 所要人員 延約 七〇〇〇人
主要陣地構築ノミトス。

ハ 使用資材
ダイナマイト及黄色薬 約ニテ四六ト
セメント 約ニテ〇〇〇ト

陣地名	本陣地	予備	全長	資材	セメント	鉄筋
山砲陣地	四	五	一四五	八二ト	六五	一〇〇ト
速射砲陣地	八	二	一一三	六五	四〇	一〇
大隊砲陣地	三		二五	一五	一五	四
重機陣地	九		六四	三八	三〇	
指揮壕	三		一〇三	八一	五〇	一〇

完成時期

大砲ハ砲座及射撃設備完成 八月末
掩護設備撤収中ニシテ 戦斗行動ニ支障ナシ
機関銃々座ハ運用ニ止マル
強度

岩盤ノ主体ハ玄武岩ヨリナリ 極々堅固ニシテ
且學ヲ數十米ニ達ス
洞窟上層部ノ十数米ニシテ 一軒爆弾敷キ
續落下スルモ 破壊セラルトナリ 強度極々大ナル
モノト判定セラル

ハ敵攻害ニ依ル破壊補修
上陸當初ヨリ終戦ニ至ルハ 数回ノ爆撃ヲ受クルモ
兵器彈藥道路陣地ニ対スル損害皆無ニシテ

概況記事

一 老朽施設 飛行場施設
守備地域ニ由リテ其施設無シ

二 作戰準備ニ関スル主要命令

命令綴携行及内容不詳ニ付記成セズ

三 大軍需品集積状況

現地自治ノ状況

四 上陸當初ハ主副食共補給極々順調ナリレタリ

部隊ハ僅カニ生野米ノ自給ニ止マリ本格的ニ
 自活ヲ実施スルニ至リタル時期ハマリアチ作戦
 終了後内地ヨリ輸送杜絶シタル七月以降ニシ
 テ主食作物トシテ栽培期間ノ短カイ甘藷
 可選定之ガ計画増産ニ着手セルモ丁度
 マリアチ失陥後ニシテ情況上降地強化ニ主カラ
 傾注セラル得ザリシ爲豫定通り維持セズ
 十一月頃ニ至ル此ノ時期ニ至リトラウク島ノ保有
 米僅クニシテ主食自給ヲ本調ニ備ハザレハ食糧
 事情ハ憂慮セザラ得ザル狀況ニ陥リタルヲ以テ
 陸海軍協同ノ下ニ生産補給措置ガ新ヲニ
 設ケラル

生産補給要領ニ依リ七旺諸島方面陸海軍
 部隊ハ一六七ヶ坪平均ニ確保自給自足ノ態勢

確立ニ爲耕地ノ拡張ニ努力シ

十一月末現在約十町歩程度ノ耕地ヲ開墾ス

二月至リ生産補給機構一部改正セラル

一人一〇坪ノ保有耕地ヲ所有スルニ決定セラル

依リテ島民方カラ一部使用面積ノ拡張ヲ実施

シ然戦當時約十三ノ十五町歩耕地ヲ確保ス

收穫量ハ最初ハ及堂々〇〇〇〇〇〇ノ研程度

アリタルモ二回三回作ニ至リタル時ハ無肥料栽培

ナルヲ以テ收穫量モ漸次減少シテノ所ハ及堂

一〇〇ノ研程度ニ至リ給養ニ相當困難性加ハリ

更ニ夜盗虫タル害虫大発生シ昭和二十年七月ノ

八月ニ至リ被害極メテ甚大ニ至リ其ノ影響ハ

帰來時及バ

給養量ハ昭和十九年七月ノ十日止ハ主食(米)

三日量三、四〇〇及混入スルニ止マル
十日、三日、三日、一日、混食量ハ稍増加シキ。

三日、四、九月、廿六、約一三〇〇及一五〇〇五程度ニシテ
中、十日ハ夜盗去被害、為一〇〇〇及以下、概一トス
二方甘藷、收量漸次低下スルニ鑑、余剩耕地
ヲ利用、夕ヒオカヲ主食補助食トシテ栽培
約ニ三、六、抹栽培セリ

夕ヒオカハ收量極大ニシテ、大且虫害ニ依ル被害僅少ナル
ヲ以テ利用價値大ナルヲ以テ、急速ニ之ヲ栽培考
ス

又一部隊ニ於テ決戦糧秣更新用トシ玉蜀黍
ヲ栽培、之又收量確実ニ高、効果大ナルモ
アリタリ。

(2) 野菜ハ主トシテ南瓜、夕稷、オクラ、ササゲ

南瓜、蒞蓮草(假名)胡白、苜蓿等ヲ栽培
自給ス。之ハ耕地ハ一人約十、二十坪平均
ニ確保シ、主トシテ現金財源ヲ耕作栽培ス

(3) 燃料ハ現地物産、雜木ヲ利用、一方決戦用

トシ、木炭ヲ約一ヶ月分確保ス(部隊自給)
塩ハ海水ヲ煮沸、蒸氣等セシメ製氷自給ス

(4) 決戦用トシテ日常使用量以外ニ約一ヶ月分ヲ確保ス

家畜ハ牛、豚、鶏、等ヲ飼育利用
部隊ニ成牛、五頭、仔牛ニ頭
豚、三頭

(5) 漢粉 漢粉班ヲ編成、週ニ一回程度実施ス

鶏 約 一四〇羽程度
豚 三頭

當初ハ爆薬ノ使用ヲ止セテアリタルヲ以テ

澳獲量ハ僅クニテ利用價値ヲカリニモ終戦

以後爆薬使用許可セラルヲ以テ收穫量モ増加シ

一團一人約二三百五給カスルヲ得タリ

(6) 油類 脂肪給ホノ原泉ナル食油ハ當初配給ヨリ

爾後椰子油ヲ採取利用ス

5. 訓練ノ状況

訓練ハ主トシテ對戰車戰鬥對舟艇射撃訓練ニ

徹在ス

對戰車戰鬥ハ一人一名主義ニ徹シ爆薬取扱法

肉攻訓練ヲ實施ス之カ爲兵舎附近ニ模型ヲ

製作朝夕一零細ナル特向充當將校以下

訓練ス

射撃ハ山砲ニテ未以內速射砲ニテ未以內

ニ於テ射撃開始ヲ實施シ初歩以テ主義ニ徹ス

訓練ハ朝夕陣地構築一團際ヲ利用實施ス

夜間訓練ハ團一團ニテ實施シ夜間一挺進肉攻

新區訓練夜間機動訓練ヲ實施ス

上陸當初ヨリ終戦ニ至ル陣地構築ニ兵力ヲ使用

シ得タル状況ニテ訓練一特向配當ハ極メテ僅ク

ナルヲ以テ努メテ朝夕陣地構築等一零細ナル特

向ヲ利用訓練ヲ實施ス

特ニ八月以降岩盤陣地構築自活強化等

主要作業續出且糧食漸次充足兵員一体力

モ低下ニ来タルヲ以テ其ノ困難性倍加ス

陸軍

然し其兵器彈藥ノ保有數鑑メテ僅少ナ
守備隊ハ此ノ欠ヲ補フモノハ訓練ニアルカニ思ヒテ
至シ萬難ヲ排シ凡百ノ手段ヲ講イテ
訓練ハ精到ヲ期セシ

五、戦斗状況

参考として主要な作戦(戦斗)の概要

部隊戦斗履歴参照

上陸当初よりマリアナ失陥迄ハ水際陣地強化ニ邁進其間対
 戦車戦斗対舟艇射撃及夜間機動訓練ヲ実施シ敵
 來襲ニ高遠遺憾ナキヲ期シ八月以降マリアナ戦訓ニ鑑ミ
 水際一戰陣地ヲ放棄シ縱深配備ホ式ヲ採用陣地ハ
 主トシテ岩盤陣地ニ変更晝夜兼行ニテ主要構築ヲ速
 進一才輸送補給意ヲ如リテカハニ依リ一部兵力ヲ現地
 自活ニ從事セシム依テ部隊ハ陣地構築ヲ教育訓
 現地自活ヲ併行ニテ促進ヲ圖リソフ敵來襲ニ備フ
 2. 機動部隊來襲状況

昭和十九年四月三十日

米機動部隊進ハル機

五月一日

グラマン戦斗機主力

3. 敵機來襲状況
 昭和二十年六月十七日英援助部隊(未確定)七曜諸島被害ヲ

昭和十九年四月以降昭和二十年三月頃迄ハ毎日二十機程度
 ニ梯團ニナリ來襲セルニテ備隊ヲ被害無シ(詳細不明)
 4. 5. 6 項ハ概況事項項ニ無シ

天経理

最ニ補給困難ニ狀況ト支給品ノ尊重愛護ト現地物資ノ創意工夫ニ不備ノ努力ヲ致セシ結果良況ニ終リニモト
思考ス

給養

上陸當初ハ比較的良好ナリシモカイパンニ戦斗後ヨリ漸次補給絶望トナリ保有糧秣亦減少致シ加フルニ極暑ノ築城作業繁劇ヲ極メ体力ノ消耗甚クシテ現地物資(バナヤ、バナナ、椰子等)ノ利用ト自活(甘藷ヲ主トス)トノ併進ニヨリ危地ヲ脱セリ自活ハ上陸當時ヨリ著意セシモ築城作業繁劇ヲ極メ昭和十九年七月頃ヨリ遂次計画的ニ實施シ昭和十九年十月ヨリ主食食ニ混食致シ主食食定量七百二十瓦ヲ三割程度ニ減じセシメリ昭和二十年二月以降ハ完全自活移行セシメ体力亦充實一兵ノ弱者ヲモ出ナカリシ良況ヲ決戦用糧秣トシテ是食

副食共約一月分ヲ最後迄確保セリ

又被服

熱地ニ於テ最モ必要ナリシモノハ蚊帳及防暑略衣袴、夕オム禪等ナリ然ルニ略衣袴ノ地質不良ナルヲ着用度數多キニ鑑ミ汚損甚ク再ニ修理セシモ遂ニ修理不能ノ状態トナリ殆ト日中ニ於テハ禪一本ニテ戦斗任務ヲ續行セリ

衛生

ノ地方住民ノ状況

島民ハ一般ニ衛生思想低ク生活程度亦南洋廳東部支廳ノ生活改善ニ係リテ原始的ノ域ヲ漸ク脱スルニ過キテ家庭船中ニテ柳ノ葉(ルロカン)ニテ屋根ヲ覆フハ屋穩度ニシテ不潔ナリ便所海岸ニ於テ海上ニ板石ヲ掛出シ作製セシモノ食料トシテハバナ果ヲ主食トシテ果物小魚貝類ヲ食ス特ニ不衛生ナルバナ果未熟期(毎年十月頃ヨリ翌年四月頃ニ至ル間)ニ於テ古キバナ果ヲ土中ニ埋没蓄積シ之ヲ食スル莫クニテ神至痛様ノ発作ヲ覺悟トシテ之ヲ食セリ地方風土病トシテハ「アムバ性赤痢」「フランペリア」「デング熱」「ワイル氏病」「熱帶潰瘍」「猩獺ヲ極メテリ」結核亦民族的ニ處女地ナル爲カ浸淫甚シク肺結核「カリエス」ヲ主トス性病ハ梅毒ハ「フランペリア」ト混合セル状態ヲトルモノ如ク患者ハ之ヲ見カレモ淋病ハ島民ノ思春期以後ノ男女ハ九〇%罹患セルモノト認ムマラリヤ患

者ハ外南洋(ナウル島ニエーギョア島)ヨリノ歸還島民ニシテ見ルニシテ皆無シテアアフエス族ノ蚊亦發見セズ有害虫類トシテ蛇類ハ一切之ヲ見ズ蚊「ツヨ」ノ發生ハスコルノ類同ト共ニ増加ストカゲハ「樽」アルモ大ナルモノハ之ヲ見ズ

又部隊ノ衛生状況

昭和十九年三月五日トラウヲ諸島七曜島ニ上陸以來水際陣地構築ニ重兵ヲ施行居住施設モ從フテ平地ニ兵舎ヲ構築衛生施設ハ先備衛生教育ノ徹底ヲ期シルモ上陸當初約二ヶ月間「デング」熱患者多発シ同年八月九月ニ渡リアメリカハ性赤痢患者ノ發生ヲ見タリ同年八月マリアナ作戦ノ結果ニ依リ岩盤陣地構築作業開始同年十月部隊ハ概テ高地ニ居住施設ヲ移轉以來還境ノ清潔ニ依リ「爲カ」特種傳染性疾患ノ發生ヲ見ズ部隊上陸以來衛生指導ノ重兵ヲ傳染病予防ニ施行之カ爲防蚊ノ爲パン樹脂ニシテ蚊取板作製蚊叩キ使用ニシテ

宿舎附近、清掃防蠅、廁(暗黒ヲ完全ニシテ)ト、狀候蠅作製ノ徹底ヲ期シ陣地構築村空、戩斗ノ間隙ヲ利用シ各隊蠅取鏡走ヲ実施セシメタリノ其他一般蠅傳染病予防ノ爲メ、隊ヲ徹底セシメタリ昭和十九年九月湿地作業ノ爲メ、口内氏病發生ヲトシテ諸島全般ニ見込爲捕鼠ノ勵行ヲ創シ完全治療ヲ実施シ當部隊ニ於テハ昭和二十年一月一名發生ヲ見ルニシテ昭和十九年八月以來物資輸送杜絶ノ爲現地自活ハ絶對的ノモトナリ之ガ爲給養ノ必要量ノ絶對確保主要養料ニ不足トシ蛋白質補給ノ爲漁撈食用ノ動物ノ捕獲、豆科植物ノ栽培等ヲ主食甘藷ノ栽培ト共ニ実施榮養生調疾患有發生ヲ未然ニ防止スルコトニ努力爲ニ體重減少ヲ見ズ榮養生調患者一名ヲ見ルカハ好結果ヲ得セリ

傳染病患者發生狀況主トモノ左ノ如シ

昭和十九年四月 デング熱 十二

五月 デング熱 五十六

六月 デング熱 二十七 アムバ性赤痢 二

七月 アムバ性赤痢十七 デング熱 十一

八月 アムバ性赤痢十三

九月 アムバ性赤痢 七

十月十一月十二月 特記スル患者ナシ

昭和二十年一月、口内氏病一二月以降終戦迄特記スル患者ナシ其他ノ疾患トシテハ胃腸炎、氣管支炎、感冒、痔核、痔瘻ニシテ痔核、痔瘻十二名ノ發生ヲ見ルハ異ナル現象ナリ

終戦

八、帰還ヨリ帰還上ノ行動概要

陸軍

昭和二十年八月十五日終戦ノ大詔ヲ拜シ部隊一同
悲奪斷腸ノ念ヲ排シ得テアリシモノアリタルモ

漸次冷静ニナリ且世界ノ事態勢ヲ考察スルニ
諸般ノ情况ハ我ト不利ニシテ此ノ儘戦ヲ遂行セバ

遂ニ先衰アル國体ヲ護持サヘスガモ危機ニ立ケ到ク
ルヲ忍ビ此處ニ悲涙ヲ覆シ忍ビ難キヲ忍ビ堪ヘ難キヲ

堪ヘ真ニ大詔ノ真意ヲ解シ之ガ具現ニ應ジスルニ
今後ニ於ケル吾々ノ最大ノ務メタルニ思ヒテ敢シ黙シトシテ

符命業務ニ服セリ
此ノ向軍紀風紀ハ従前ト何等異ナル所ナリ極メテ

嚴正ニ維持セラレ且一般地方民衆ノ思慕動向モ
極メ温和ニシテ何等憂慮セラルル状態ニ至ラス

治安状況ハ極メテ良好ナリ

七八月ノ兩月ニ至ル甘藷夜盗虫ノ被害ハ吾々ノ想像
以上ニシテ之ガ影響ハ九月ノ十日ニ及ビ

且帰還ノ日取未定ナルヲ以テ守備隊ハ鋭意日清
ニ努力シ兵員ノ体力向上ヲ期シタル結果其ノ成果

良好ニシテ体重ハ漸次上昇 羅南出奔者等ノ帰還ニ
復ス

九月初旬米側指令ニ依リ彈藥類ノ深海投棄ヲ
實施ス

十月兵器軍需物品ノ集積ヲ主力ヲ後方ヨリ以テ
實施シ無事終了ス

十月以降島山清掃作業ヲ實施ス
兵舎附近主要道路ノ清掃陣地(水際附近)ヲ
破壊ス

十二月二十六日内地帰還ノ為夏島集結ヲ命ゼラレ

同日水旺島出發夏島陸軍野戰病院附設
宿營 一日四日LST五〇三號二乘船途中何等ノ
事故無ク一日十四日無事浦賀三ノ港
馬場收容所ニ入所現任ニ到ル。

十月十七日復員完結

一部マダラ月七日トシテ 出航 月廿七日浦賀上陸

八月八日復員完結

戦斗詳報陣中日敵作命綴ハ其命令ニ依リ
全部焼却携行セズ

34

關東上陸地支局 昭和三年一月一日

史實調査參考資料報告

所在地	職官	氏名	摘要
支那要吏 以降ニ於ル 自己ノ略歴		[Handwritten Name]	職ノ変更及主 ナル参加戦斗 名ヲ記ス
所在部隊 編成年月日 及編制裝 備ノ概要		[Handwritten Details]	最後ノ所屬 部隊ヲ至ニシ 尚ソ以前ノ 所屬部隊ハ 分テ主概記ス
所屬部隊 作戰經過 概要		[Handwritten Details]	[Handwritten Summary]
終戦(又ハ主力 ノ戦ヲ終了) 後ノ概況		[Handwritten Details]	歸還輸送 ノ概況ヲ詳 記ス
歸郷(又ハ運 絡)先	高城野	[Redacted]	[Redacted]
其他ノ参 考事項			
備考		將校ニ記載セシメテ復シ省史実部ニ送付ス	

0387

史實調査參考資料報告

原島

所在地

南洋群島トノ

大隊長陸軍少佐

モノ記ス

新編部隊

獨立混成第百陸隊

氏名

吉田治作

モノ記ス

支那

昭和十三年三月三日砲兵中尉、同年七月二十日張鼓峯
戰に参加、昭和十五年七月三日神島砲兵第百五
隊中隊長、昭和十六年三月一日陸軍大尉、昭和十六
年十一月十日補給兵第百五隊隊副官、昭和十六年五月
一日陸軍中尉、昭和十六年九月三日補給兵第百五隊
山砲兵第百五隊隊長、昭和十六年九月三日、同日南
海軍中尉、昭和十六年九月三日、同日南

職変更
及主ナル参
戰年表
ヲ記ス

自己略歴

昭和十九年三月五日上陸

其以降ノ所
屬部隊分
ヲ記ス

所屬部隊

直轄部隊一ヶ中隊

其以降ノ所
屬部隊分
ヲ記ス

編制

昭和十九年六月三日改編

其以降ノ所
屬部隊分
ヲ記ス

日支編制

大隊本部

其以降ノ所
屬部隊分
ヲ記ス

裝備

中隊三ヶ中隊

其以降ノ所
屬部隊分
ヲ記ス

概要

一ヶ中隊砲四門

其以降ノ所
屬部隊分
ヲ記ス

所屬

昭和十九年三月五日上陸

其以降ノ所
屬部隊分
ヲ記ス

部隊

二ヶ中隊ヲ步兵隊ニ配屬

其以降ノ所
屬部隊分
ヲ記ス

作戰

一ヶ中隊ヲ離島步兵部隊ニ配屬

其以降ノ所
屬部隊分
ヲ記ス

經過

直轄部隊一ヶ中隊

其以降ノ所
屬部隊分
ヲ記ス

概要

終戰ニ至ル迄妻更ナクトラス島守備
ニ任

其以降ノ所
屬部隊分
ヲ記ス

終戰後

大隊ニ歩兵二ヶ中隊ノ配屬ヲ受テ一島守備ヲス

其以降ノ所
屬部隊分
ヲ記ス

兵器

終戰後兵器被服ヲ一地ニ集積シ引渡

其以降ノ所
屬部隊分
ヲ記ス

準備

シノ準備ヲス。次キニ島内ノ清浄ニ任

其以降ノ所
屬部隊分
ヲ記ス

陣地

陣地其他障害物ノ整理ヲナシ部隊主力

其以降ノ所
屬部隊分
ヲ記ス

退却

翌日トラスノ出發殘餘者千三名ノ人員ヲ以テ

其以降ノ所
屬部隊分
ヲ記ス

後ノ状況

七日島出發歸還セリ工作隊員トテ七名殘置セリ

其以降ノ所
屬部隊分
ヲ記ス

名

大分縣

其以降ノ所
屬部隊分
ヲ記ス

其他

大分縣

其以降ノ所
屬部隊分
ヲ記ス

備考

大分縣

其以降ノ所
屬部隊分
ヲ記ス

関東上陸地支局

(昭和二十一年一月一日)

史實調査参考資料報告

陸海軍

所在地 南洋諸島トラツ島

前編 独逸混成隊五二番目 陸軍大尉大石武志

支那軍支隊 昭和十五年一月十日 現任兵士ト山田兵衛三十五 聯隊第六中隊第六等

自乙略歴 昭和十八年九月三日 中尉 昭和二十年八月三日 大尉

昭和十九年三月二十五日 中尉 昭和二十年八月三日 大尉

昭和二十年一月十八日 復員完結

所屬 昭和三十九年二月二十日 陸軍機密第一〇号 臨時編隊下令 同月二十五日

編隊完結 昭和十九年六月三日 改編 中隊四門 編成 (大隊本部 中隊三ヶ中隊)

概要 昭和三十九年三月二十五日 トラツ島 七耀島 上陸後 第一次

部隊 昭和三十九年三月二十五日 トラツ島 七耀島 上陸後 第一次

作戦 昭和三十九年三月二十五日 トラツ島 七耀島 上陸後 第一次

経過 昭和三十九年三月二十五日 トラツ島 七耀島 上陸後 第一次

概要 昭和三十九年三月二十五日 トラツ島 七耀島 上陸後 第一次

終戦後 昭和三十九年三月二十五日 トラツ島 七耀島 上陸後 第一次

三ヶ島 昭和三十九年三月二十五日 トラツ島 七耀島 上陸後 第一次

後ノ状況 昭和三十九年三月二十五日 トラツ島 七耀島 上陸後 第一次

昭和三十九年三月二十五日 トラツ島 七耀島 上陸後 第一次

昭和三十九年三月二十五日 トラツ島 七耀島 上陸後 第一次

昭和三十九年三月二十五日 トラツ島 七耀島 上陸後 第一次

昭和三十九年三月二十五日 トラツ島 七耀島 上陸後 第一次

昭和三十九年三月二十五日 トラツ島 七耀島 上陸後 第一次

昭和三十九年三月二十五日 トラツ島 七耀島 上陸後 第一次

昭和三十九年三月二十五日 トラツ島 七耀島 上陸後 第一次

昭和三十九年三月二十五日 トラツ島 七耀島 上陸後 第一次

昭和三十九年三月二十五日 トラツ島 七耀島 上陸後 第一次

関東陸地支局 昭和二十年一月十五日

史實調査参考資料報告

所在地 南洋群島之島 職官 中隊長 陸軍大尉

所属部隊 獨立土佐團第一砲兵隊 氏名 北 清

支那事変以降之於セル自己之略歴 支那事変中陸軍士官学校在學
 昭二二、三二陸軍中隊 昭二六、二七陸軍少尉補山崎中隊長
 昭二九、三〇南洋群島之島守備 八日一日陸軍中尉
 昭三〇、三一第一砲兵隊中隊長浦マシ

職、変更及主
 アル参加戦斗
 名ヲ記ス

所在部隊、編成年月日、及編制裝備ノ概要 昭和十九年六月廿日、獨立第一土佐團第一砲兵隊
 編制裝備、機雷

- 中隊長(少将)
- 歩兵大隊 五(少佐三 大尉三)
- 砲兵大隊 二(少佐三)
- 工兵隊 三(中隊長(大尉)

最後ノ所属
 部隊ヲ主ニシ
 尚ソ以前ノ
 所属部隊ハ
 分テモ概記ス

所属部隊、作戦経過、概要 昭和十九年三月二十五日以降
 南洋群島之島七哨島守備

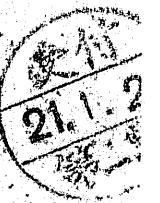
敵戦(又ハ主力ノ戦ヲ終了)後、概況 終戦後、軍、部隊ノ集結及自活ノ業ニ従事ス
 帰還輸送ニ概テ参加有内情、實存セリ

帰還輸送
 ノ状況ヲ併
 記ス

歸郷(又ハ連絡)先 香川縣

其他ノ参考事項 特記事項ナシ

備考 將校ニ記載セシムルニ復員省史官部ニ送付ス



関東上陸地支局

昭和二十年一月十五日

史實調査参考資料報告

所在地	所属部隊	職官	摘要
トウラク七曜諸島	特混隊第五十旅団	氏名 大尉 道津利吉	終戦時ノモリヲ記ス
支那事変以降ニ於ケル自己略歴	昭和十三年六月三十日ヨリ昭和十六年十月三十日迄朝鮮咸北南ニテ學校校配属將校昭和十五年十一月ヨリ昭和二十年六月十日迄中隊長昭和十五年十月ヨリ復員迄大隊指揮隊長	職、変更及主ナル参加戦斗名ヲ記ス	
所在部隊、編成年月日及編制裝備、概要	昭和十九年七月七日特混隊率部五十一旅団第一五五隊第一中隊		
所属部隊、作戦経過、概要	昭和十九年三月ヨリ四月ヨリ第一中隊ノ内訳 全隊を配属 24名ノ内 R1A 4名 月曜を配属 9名ノ内 R1A 2名	最後ノ所属部隊ヲ主ニシ尚ソ以前ノ所属部隊ハ分テモ概記ス	
終戦(本主力ノ戦ヲ終了)後ノ概況	終戦後、トウラク島ニ在リテ、島内民衆ヲ救ヒ、現地自治ノ実施ノ爲メ、島内民衆ヲ救ヒ、昭和二十年一月ヨリ復員迄、トウラク島ヨリ乗船一月十四日浦安大港ニ上陸	歸還輸送ノ状況ヲ併記ス	
歸郷(又ハ連絡)先	長崎縣		
其他ノ参考事項			
備考	將校ニ記載セシメテ一復員省史實部ニ送付ス		

昭和二十一年一月十五日

史實調査参考資料報告

所在地	職官	氏名	摘要
支那事変以降ニ於テ自己ノ略歴	昭和三十二年六月一日至七月十日迄山形県警備隊中隊中隊長	井上 康一	終戦時ノ職ニ変更及主ナル参加戦斗名ヲ記ス
所在部隊、編成年月日及編制裝備ノ概要	昭和三十二年八月十日、第二次ノ第九次同ノ	昭和三十二年八月十日、第二次ノ第九次同ノ	最後ノ所属部隊ヲ至ニシ尚ソ以テ前ノ所属部隊ハ分テモ概記ス
所属部隊、作戦經過、概要	昭和三十二年八月十日、第二次ノ第九次同ノ	昭和三十二年八月十日、第二次ノ第九次同ノ	終戦後ノ兵隊降参、船程、運送、自決ノ様子
終戦後ノ兵隊降参、船程、運送、自決ノ様子	昭和三十二年八月十日、第二次ノ第九次同ノ	昭和三十二年八月十日、第二次ノ第九次同ノ	昭和三十二年八月十日、第二次ノ第九次同ノ
昭和三十二年八月十日、第二次ノ第九次同ノ	昭和三十二年八月十日、第二次ノ第九次同ノ	昭和三十二年八月十日、第二次ノ第九次同ノ	昭和三十二年八月十日、第二次ノ第九次同ノ
昭和三十二年八月十日、第二次ノ第九次同ノ	昭和三十二年八月十日、第二次ノ第九次同ノ	昭和三十二年八月十日、第二次ノ第九次同ノ	昭和三十二年八月十日、第二次ノ第九次同ノ
昭和三十二年八月十日、第二次ノ第九次同ノ	昭和三十二年八月十日、第二次ノ第九次同ノ	昭和三十二年八月十日、第二次ノ第九次同ノ	昭和三十二年八月十日、第二次ノ第九次同ノ
昭和三十二年八月十日、第二次ノ第九次同ノ	昭和三十二年八月十日、第二次ノ第九次同ノ	昭和三十二年八月十日、第二次ノ第九次同ノ	昭和三十二年八月十日、第二次ノ第九次同ノ
昭和三十二年八月十日、第二次ノ第九次同ノ	昭和三十二年八月十日、第二次ノ第九次同ノ	昭和三十二年八月十日、第二次ノ第九次同ノ	昭和三十二年八月十日、第二次ノ第九次同ノ
昭和三十二年八月十日、第二次ノ第九次同ノ	昭和三十二年八月十日、第二次ノ第九次同ノ	昭和三十二年八月十日、第二次ノ第九次同ノ	昭和三十二年八月十日、第二次ノ第九次同ノ
昭和三十二年八月十日、第二次ノ第九次同ノ	昭和三十二年八月十日、第二次ノ第九次同ノ	昭和三十二年八月十日、第二次ノ第九次同ノ	昭和三十二年八月十日、第二次ノ第九次同ノ
昭和三十二年八月十日、第二次ノ第九次同ノ	昭和三十二年八月十日、第二次ノ第九次同ノ	昭和三十二年八月十日、第二次ノ第九次同ノ	昭和三十二年八月十日、第二次ノ第九次同ノ
昭和三十二年八月十日、第二次ノ第九次同ノ	昭和三十二年八月十日、第二次ノ第九次同ノ	昭和三十二年八月十日、第二次ノ第九次同ノ	昭和三十二年八月十日、第二次ノ第九次同ノ
昭和三十二年八月十日、第二次ノ第九次同ノ	昭和三十二年八月十日、第二次ノ第九次同ノ	昭和三十二年八月十日、第二次ノ第九次同ノ	昭和三十二年八月十日、第二次ノ第九次同ノ

0392

史実調査参考資料報告

摘要

所在地

南洋群島上ノノ島

職官

連絡隊陸軍大尉 大塚中治郎

所属部隊

連絡隊陸軍大尉大塚中治郎

終戦時ノモリ
ヲ記入

支那事変

昭和十九年七月十五日 昭島

職ノ変更及主
ナル参加戦
斗ノ記ス

以降ニ於ケル

昭和十九年八月十日

職ノ変更及主
ナル参加戦
斗ノ記ス

自己ノ略歴

昭和十九年八月十日

職ノ変更及主
ナル参加戦
斗ノ記ス

編成年月日

昭和十九年八月十日

職ノ変更及主
ナル参加戦
斗ノ記ス

及編制装

編成 大隊本部
三ヶ中隊

職ノ変更及主
ナル参加戦
斗ノ記ス

備ノ概要

若浦中隊山内

職ノ変更及主
ナル参加戦
斗ノ記ス

新属部隊

自昭十九年三月廿五日
至三月廿八日 本隊一、九次向ノ上ノ島
附近 戦斗ニ参加

最後ノ所属
部隊ヲモエシ
尚ソ以前ノ
所属部隊ハ
全クモ概記ス

作戦経過ノ

概況

概況ヲ併
記ス

終戦(又ハ主力)

終戦後ノ経過トシテ、島ニ在リテ現地自衛ノ事ヲ
傍ラシメ、自昭十九年三月廿五日
昭十九年三月廿八日 本隊一、九次向ノ上ノ島
附近 戦斗ニ参加

概況ヲ併
記ス

後ノ概況

一月十日 昭島 戦斗ニ参加

概況ヲ併
記ス

歸郷(又ハ運

送)

概況ヲ併
記ス

其他ノ参

考事項

概況ヲ併
記ス

備考

將校ニ記載セシメ、一復日、史実部ニ送付ス

概況ヲ併
記ス

史實調査參考資料報告

昭和五年一月十五日

摘要

所在地	職官	職官	終戦時ノ ヲ記入
支那事変 以降ニ於テ 自己ノ略歴	昭和三十二年一月十五日 昭和三十二年一月十五日 昭和三十二年一月十五日 昭和三十二年一月十五日 昭和三十二年一月十五日	昭和三十二年一月十五日 昭和三十二年一月十五日 昭和三十二年一月十五日 昭和三十二年一月十五日 昭和三十二年一月十五日	職官變更及主 ナル参加戦 名ヲ記入
所在部隊 編成年月日 及編制裝 備ノ概要	昭和三十二年一月七日 昭和三十二年一月七日 昭和三十二年一月七日 昭和三十二年一月七日 昭和三十二年一月七日	昭和三十二年一月七日 昭和三十二年一月七日 昭和三十二年一月七日 昭和三十二年一月七日 昭和三十二年一月七日	最後ノ所属 部隊ヲ主ニ 尚ソ以テ用 ノ所属部隊 分ヲモ概記
所属部隊 作戰經過ノ 概要	昭和三十二年一月七日 昭和三十二年一月七日 昭和三十二年一月七日 昭和三十二年一月七日 昭和三十二年一月七日	昭和三十二年一月七日 昭和三十二年一月七日 昭和三十二年一月七日 昭和三十二年一月七日 昭和三十二年一月七日	歸還輸送 ノ状況ヲ併 記ス
終戦(又ハ主力 ノ戦半終了) 後ノ概況	昭和三十二年一月七日 昭和三十二年一月七日 昭和三十二年一月七日 昭和三十二年一月七日 昭和三十二年一月七日	昭和三十二年一月七日 昭和三十二年一月七日 昭和三十二年一月七日 昭和三十二年一月七日 昭和三十二年一月七日	昭和三十二年一月七日 昭和三十二年一月七日 昭和三十二年一月七日 昭和三十二年一月七日 昭和三十二年一月七日
歸郷(又ハ連 絡)先	昭和三十二年一月七日 昭和三十二年一月七日 昭和三十二年一月七日 昭和三十二年一月七日 昭和三十二年一月七日	昭和三十二年一月七日 昭和三十二年一月七日 昭和三十二年一月七日 昭和三十二年一月七日 昭和三十二年一月七日	昭和三十二年一月七日 昭和三十二年一月七日 昭和三十二年一月七日 昭和三十二年一月七日 昭和三十二年一月七日
其他ノ参 考事項	昭和三十二年一月七日 昭和三十二年一月七日 昭和三十二年一月七日 昭和三十二年一月七日 昭和三十二年一月七日	昭和三十二年一月七日 昭和三十二年一月七日 昭和三十二年一月七日 昭和三十二年一月七日 昭和三十二年一月七日	昭和三十二年一月七日 昭和三十二年一月七日 昭和三十二年一月七日 昭和三十二年一月七日 昭和三十二年一月七日
備考	昭和三十二年一月七日 昭和三十二年一月七日 昭和三十二年一月七日 昭和三十二年一月七日 昭和三十二年一月七日	昭和三十二年一月七日 昭和三十二年一月七日 昭和三十二年一月七日 昭和三十二年一月七日 昭和三十二年一月七日	昭和三十二年一月七日 昭和三十二年一月七日 昭和三十二年一月七日 昭和三十二年一月七日 昭和三十二年一月七日

0394

廣東上陸地支局

昭和二十年一月十五日

史實調査參考資料報告

摘要

所在地

カロリン群島上之諸島

大隊附軍醫 軍醫大尉

終戦時ノモ

所屬部隊

獨立混成歩兵旅團第()旅團

石 木 貞 五 口

ヲ記ス

支那事変以降ニ於ケル自己ノ略歴

昭和十七年一月 軍医候補生トシテ歩兵中隊ニ編入シテ
昭和十七年四月 任 陸軍軍醫中隊 山形 兵 中 隊 附 補 給 部
昭和十九年三月 任 南 海 道 支 隊 附 補 給 部 附 補 給 部 附 補 給 部
昭和十九年三月 任 南 海 道 支 隊 附 補 給 部 附 補 給 部 附 補 給 部
昭和十九年六月 任 南 海 道 支 隊 附 補 給 部 附 補 給 部 附 補 給 部
昭和十九年六月 任 南 海 道 支 隊 附 補 給 部 附 補 給 部 附 補 給 部

所在部隊ノ編成年月日

昭和十九年六月七日 獨立混成歩兵旅團第一砲兵隊

編成 大隊本部 三ヶ中隊

及編制裝備ノ概要

裝備 各中隊山砲四門

所屬部隊ノ作戰經過ノ概要

自 昭和十九年 任 南 海 道 支 隊 附 補 給 部 附 補 給 部 附 補 給 部
二十一年八月 任 南 海 道 支 隊 附 補 給 部 附 補 給 部 附 補 給 部
斗ニ考ル

最後ノ所屬部隊ヲ至ニシ尚ソ以前ノ所屬部隊ハ分テモ概記ス

終戦(又主力ノ戦ヲ終了)後ノ概況

終戦後ハ依然トシテ島ニ於テ現地自治ノ実施俾
島内清掃ニ任ス
昭和二十一年一月五日 復員ノ島トシテ島ヲ離ル
一月十日 浦賀港着
LST 502号

歸還輸送ノ状況ヲ併記ス

歸郷(又連絡)先

兵庫縣

其他ノ参考事項

備考

將校ニ記載セシメテ一復員者ノ史實部ニ送付ス

関東上陸地支局

昭和二十一年一月十五日

史實調査参考資料報告

摘要

所在地	南洋群島 トラウク島	職官	獨立混成旅団五旅団 砲兵隊 砲兵中隊 胡田憲俊ヲ記ス
所屬部隊	獨立混成旅団五旅団 砲兵隊	氏名	陸軍少佐 中尉 胡田憲俊ヲ記ス
支那事変以降ニ於ケル自己、略歴	<p>昭和十七年二月一日 歩兵第七八旅団補充隊ニ加入</p> <p>昭和十八年十二月一日 陸軍少佐 同山砲兵中隊</p> <p>昭和十九年三月十日 南洋海軍遺棄、只空山出奔、トラウク島</p> <p>昭和十九年三月十日 補給隊ニ加入</p> <p>昭和十九年六月 補給隊ニ加入</p>		職、変更及主ナル参加戦斗名ヲ記ス
所在部隊、編成年月日、及編制裝備、概要	<p>昭和十九年六月七日 獨立混成旅団五旅団 砲兵隊</p> <p>編成 大隊 中隊 三ヶ中隊</p> <p>裝備 各中隊 小砲 四門</p>		最後、所屬部隊ヲ主ニシテ尚ソ、以テ用テ所屬部隊ハ分テモ概記ス
所屬部隊、作戰經過、概要	<p>自昭和十九年三月十五日</p> <p>至昭和二十年八月十五日</p> <p>島附近ノ戦斗ニ参加</p>	<p>第二次</p> <p>九次</p> <p>トラウク島</p>	
終戦(又ハ主力ノ戦)終了後ノ概況	<p>終戦後ハ依然トシテトラウク島ニ在リ</p> <p>現地自治活動ヲ開始ス</p> <p>昭和二十一年一月五日 復員ノ爲メトラウク島ヨリ</p> <p>島ヨリ LST 502 号ニ乗船 一月十日 浦加良島</p>		歸還輸送ノ状況ヲ併記ス
歸郷(又ハ連絡)先	<p>廣島県</p>		
其他ノ参考事項			
備考	<p>將校ニ記載セシメテ一復員省史実部ニ送付ス</p>		

0397

史實調査参考資料報告

摘要

所在地	南洋群島トロンク島	職名	少隊長 陸軍中尉	終戦時ノモ ヲ記ス
所屬部隊	旅団長 陸軍第一師団	氏名	一ノ倉 世三	職ノ変更及主 ナル参加戦斗 名ヲ記ス
支那事変 以降ニ於テ 自己ノ略歴	昭和十一年十一月一日 陸軍少尉 (陸軍) 旅団長 陸軍第一師団 (支那) 昭和十一年十一月一日 陸軍少尉 (陸軍) 旅団長 陸軍第一師団 (支那) 昭和十一年十一月一日 陸軍少尉 (陸軍) 旅団長 陸軍第一師団 (支那) 昭和十一年十一月一日 陸軍少尉 (陸軍) 旅団長 陸軍第一師団 (支那) 昭和十一年十一月一日 陸軍少尉 (陸軍) 旅団長 陸軍第一師団 (支那)			
所在部隊ノ 編成年月日 及編制裝 備ノ概要	昭和十一年十一月一日 陸軍少尉 (陸軍) 旅団長 陸軍第一師団 (支那) 編成 大隊下等ノ一及 三ノ中隊 仕務 九巴式山砲四門 増設 山砲 四門			
所屬部隊 作戰經過ノ 概要	自昭和十一年十一月一日 陸軍少尉 (陸軍) 旅団長 陸軍第一師団 (支那) 至 昭和十一年十一月一日 陸軍少尉 (陸軍) 旅団長 陸軍第一師団 (支那) 同トロンク島附近ノ戦斗ニ参加			
終戦(又ハ主力 ノ戦ヲ終ル) 後ノ概況	現地ノ食糧及兵隊ノ掃蕩ニ従フ 昭和十一年十一月一日 陸軍少尉 (陸軍) 旅団長 陸軍第一師団 (支那) 昭和十一年十一月一日 陸軍少尉 (陸軍) 旅団長 陸軍第一師団 (支那) 昭和十一年十一月一日 陸軍少尉 (陸軍) 旅団長 陸軍第一師団 (支那)			
歸郷(又ハ連 絡)先	福良島			
其他ノ参 考事項	將校ニ記載セシメテ一復員省史實部ニ送付ス			
備考	終戦時ノモ ヲ記ス			

関東上陸地支局

昭和五年一月七日

史實調査参考資料報告

摘要

所在地

南洋群島上之島

職官

中隊長

沖山義

終戦時ノモ
ヲ記ス

所属部隊

獨逸隊第... 氏

氏

陸軍大尉

沖山義

職ノ変更及主
ナル参加戦斗
名ヲ記ス

支那事変
以降ニ於テ
自己ノ略歴

編年年月日
及編制裝
備ノ概要

所在部隊

編年年月日
及編制裝
備ノ概要

所属部隊

終戦ノ概況

其他ノ参
考事項

備考

南洋群島上之島
職官 中隊長
陸軍大尉 沖山義
支那事変以降ニ於テ自己ノ略歴
編年年月日及編制裝備ノ概要
所在部隊
編年年月日及編制裝備ノ概要
所属部隊
終戦ノ概況
其他ノ参考事項
備考

高知縣



將校ニ記載セシメテ一復員省史實部ニ送付ス

關東上陸地支局

昭和二年一月十五日

史實調査參考資料報告

摘要

所在地	南洋群島トクノ諸島	職官	第中隊隊長陸軍中尉	終戦時ノモリ ヲ記ス
所屬部隊	獨逸浪士志願隊第一夜襲隊	氏名	長沼 芳男	職ノ変更及主 ナル參加戦斗 名ヲ記ス
支那事変 以降ニ於テ 自ラ略歴	一 昭和十六年七月十六日 入隊 一 昭和十八年十二月一日 十村代官 一 昭和十九年二月二十五日 山友兵衛第一五陸隊第三大隊第八中隊隊長 一 昭和十九年三月二十五日 南洋群島トクノ諸島ニ陸軍警備			
新編部隊 昭和十九年八月日 又ニ終戦時 備ノ既東	昭和十九年六月七日 獨逸浪士志願隊第一夜襲隊 編成 一 大隊 本部 二 中隊 三 中隊 裝備 各中隊 山砲四門			最後ノ所屬 部隊ヲ主 尚ソ以前ノ 所屬部隊 分ヲモ概記ス
所屬部隊 作戦經過 概要	自 昭和十九年三月二十五日 至 二十年八月二十五日 第二次ノ第九次由トクノ諸島 迄ノ期間ニ於テ			歸還輸送 ノ状況ヲ併 記ス
終戦(又ニ主力 ノ戦ヲ終了) 後ノ概況	現地自任 島内清掃ニ從事ス 昭和二十年一月五日復員ノ身トクノ諸島ヲ發 シ、三月二十五日ニ歸リ 昭和二十年一月十四日捕虜報告			
歸郷(又ニ連 絡)先	福岡縣			
其他ノ参 考事項				
備考	將校ニ記載セシメテ一復員省史實部ニ送付ス			

關東上陸地支局

昭和21年1月14日

史實調査參考資料報告

摘要

所在地	南洋群島トランバシ	職官	第三中隊小隊長陸軍中尉	終戦時ノモリヲ記ス
所屬部隊	陸軍第三旅団中隊	氏名	中山正磨	職ノ変更及主ナル参加戦斗名ヲ記ス
支那事変以降ニ於ケル自己ノ略歴	一昭和三十七年四月十日入隊 一昭和三十八年十二月一日少尉任官 一昭和三十九年二月廿五日山砲兵中隊為三六隊為八中隊小隊長ヲ被命南海派遣 一昭和三十九年三月廿六日南洋群島トランバシ島上陸整備			
所在部隊ノ編成年月日及編制裝備ノ概要	昭和三十九年六月七日獨立混成五旅団為一砲兵隊編成大隊本部及三中隊裝備九四式山砲四門			
所屬部隊ノ作戦經過ノ概要	自昭和三十九年三月廿五日 至昭和三十九年八月廿五日 第二次ノ第九次トランバシ島附近戦斗ニ参加			
終戦(又ハ主力ノ戦ヲ終了)後ノ概況	現地生産(自活)ニ從事ス 昭和三十九年一月内地帰還(為)トランバシ五〇二号ニ便乗トランバシ渡一月十四日浦賀到着			
歸郷(又ハ連絡)先	香川県			
其他ノ参考事項	將校ニ記載セシメ才一復員者史實部ニ送付ス			
備考	歸還輸送ノ状況ヲ併記ス			

0401

史實調査參考資料報告

所在地	職官	職	備考
南洋群島トリス島	小隊長	佐賀邦雄	終戦時トリス島に在り
支那事変以降ニ於テ自己ノ略歴	佐賀邦雄	佐賀邦雄	職ノ変更及主ナル参加戦斗名ヲ記ス
所在部隊 編成年月日 及編制裝 備ノ概要	昭和二十年八月五日 昭和十九年二月二十五日 昭和十九年六月七日	陸軍機務隊 陸軍機務隊	最後ノ所属部隊ヲ主ニシテ尚ソ以前ノ所属部隊ノ分ヲモ概記ス
所屬部隊 作戦經過ノ概要	昭和十九年八月二十五日 昭和二十年八月二十五日	トリス島附近ノ戦斗	終戦(又ハ主力ノ戦斗終了)後ノ概況
備考	昭和二十年八月二十五日 以後 武器解除	内地帰還	歸郷(又ハ連絡)先
備考	將校ニ記載セシメテ一復省史實部ニ送付ス		其他ノ参考事項

史實調査参考資料報告

所在地	南洋群島トモ、清島職官	摘要
支那事変以降ニ於ケル自己ノ略歴	<p>南洋群島トモ、清島職官 小隊長</p> <p>陸軍少尉 冬曾 北</p> <p>昭和十六年十二月十日 野砲兵第二十六聯隊ニ入營</p> <p>昭和十八年十二月十日 山砲兵第二十五聯隊轉任</p> <p>昭和十九年二月二十日 陸軍少尉</p> <p>昭和十九年三月二十五日 陸軍少尉</p> <p>昭和十九年八月二十五日 南洋群島トモ、清島職官</p>	<p>終戦時ノモリヲ記入</p> <p>職ノ変更及主ナル参加戦斗名ヲ記入</p>
所屬部隊ノ編成年月日及編制表儀ノ概要	<p>編成年月日</p> <p>昭和十九年二月二十日 陸軍少尉</p> <p>昭和十九年六月七日 陸軍少尉</p> <p>昭和十九年八月二十五日 陸軍少尉</p>	<p>最後ノ所屬部隊ヲ主ニシテ尚ソノ以テ所屬部隊ノ分ヲモ概記ス</p>
所屬部隊ノ作戦經過ノ概要	<p>自來三次 昭和十九年三月二十五日</p> <p>自來九次 昭和二十年八月二十五日</p> <p>昭和二十年八月二十五日 陸軍少尉</p>	<p>歸還輸送ノ状況ヲ併記ス</p>
終戦又ハ主力ノ戦ヲ終了後ノ概況	<p>昭和二十年八月二十五日 陸軍少尉</p> <p>以後 武装解除</p> <p>昭和二十年八月二十五日 陸軍少尉</p>	<p>歸還輸送ノ状況ヲ併記ス</p>
歸郷(又ハ連絡)先	<p>福岡県</p>	<p>歸郷(又ハ連絡)先</p>
其他ノ参考事項	<p>将校ニ記載セシメテ復ニ其省史實部ニ送付ス</p>	<p>其他ノ参考事項</p>

陸軍上陸地支居

昭和二十一年一月十七日

史實調査参考資料報告

摘要

所在地

南洋群島トラウ諸島

職官

陸軍少尉

所属部隊

獨逸軍第... 陸軍少尉

氏名

大橋良胤



終戦時ノモ
ヲ記ス

支那事変
以降ニ於テ
自己ノ略歴

一 昭和二十年二月一日少尉候補者第三五期トシテ
任陸軍少尉
補 獨逸混成第五旅團第一砲兵隊

職ノ変更ニ
アル事ハ
名ヲ記ス

所在部隊

一 昭和十九年三月五日第一旅團隊山砲兵第五聯隊砲臺大隊
二 昭和二十年六月七日 獨逸混成第五旅團第一砲兵隊

編成年月日
及編制裝
備ノ概要

三 編成 大隊本部 中隊三 (駒馬十)

中隊九四式山砲四 九七名

最後ノ所属
部隊ヲ主ニ
尚ソノ以前ノ
所属部隊ハ
分テモ概記ス

所属部隊
作戰經過ノ
概要

一 昭和十九年三月五日ヨリ 昭和二十年八月五日迄
第一次乃至第九次迄トシテ 島附近ノ戦斗参加

終戦(又ハ主力
ノ戦ヲ終了)
後ノ概況

一 昭和二十年八月十五日停戦協定

終戦(又ハ主力
ノ戦ヲ終了)
後ノ概況

二 南洋群島トラウ諸島ニ在リテ 武装解除引續キ

兵器集結(積)並ニ島内清掃自給作業

三 昭和二十年五月二十六日七 躍島ヨリ 四 本諸島夏島ニ集結
同二十一年一月五日米船LSTニ依リ輸送セラル

歸還輸送
ノ状況ヲモ併
記ス

歸郷(又ハ連
絡)先

福島縣

其他ノ参
考事項

備考

將校ニ記載セシメ 才一復員者 史實部ニ送付ス

0404

昭和三十一年一月十五日

史實調査参考資料報告

所在地	南洋島トク島	職官	陸軍中尉 小隊長 石川 東一	摘 要 終戦時ノモ ヲ記ス
支那事変 以降ニ於テ 自己ノ略歴	<p>一 昭和十六年十二月八日(山崎少将ニ解隊)</p> <p>一 昭和十八年十二月一日(陸軍少尉ニ任官)</p> <p>一 昭和十九年二月一日(第九中隊小隊長ヲ命ジテ南洋海峽ニ派遣)</p> <p>一 昭和十九年三月二十五日(同方ニ任官)</p> <p>一 昭和十九年八月二十五日(同方ニ任官)</p>	職変更及主ナル参加戦斗名ヲ記ス		
所在部隊 編成年月日 及編制裝 備ノ概要	<p>編成年月日</p> <p>昭和十九年二月二十五日(陸軍中尉)</p> <p>昭和十九年六月七日(陸軍中尉)</p> <p>昭和十九年八月二十五日(陸軍中尉)</p>	最後ノ所属 部隊ヲ主ニシ 尚ソ以前ノ 所属部隊ハ 分テモ概記ス		
所属部隊 作戰經過ノ 概要	<p>白方ニ次(昭和十九年三月二十五日)</p> <p>至方ニ次(昭和十九年八月二十五日)</p> <p>由「トリス」島 附近ノ戦斗</p>	歸還輸送ノ 状況ヲモ併 記ス		
終戦又ハ主力 ノ戦斗終了ノ 後ノ概況	<p>一 昭和二十年八月二十五日(停戦協定)</p> <p>一 以後武裝解除自活島内清掃作業ニ ニ従事</p> <p>一 昭和三十一年一月五日(UST五〇二号)ノ 帰還</p>			
歸郷(又ハ連 絡)先	宮城縣			
其他ノ参 考事項				
備考	將校ニ記載セシメテ一復員省史実部ニ送付ス			

關東上陸地支局

昭和二十一年一月十五日

史實調査參考資料報告

摘要

所在地	内南洋上りの島	職名	陸軍中尉小隊長	終戦時ノモノヲ記ス
所屬部隊	独立混成第5旅團第2大隊	氏名	坂口文男	職、変更及主ナル参加戦斗名ヲ記ス

支那軍変更
 昭和三十八年十一月一日 山砲兵第25聯隊報
 昭和三十八年十二月十日 陸軍少尉 昭和三十九年一月二十八日 陸軍一〇〇号
 昭和三十九年三月二十日 昭和三十九年九月九日 昭和三十九年九月九日 昭和三十九年九月九日
 昭和三十九年八月二十五日 昭和三十九年九月九日 昭和三十九年九月九日 昭和三十九年九月九日

所在部隊
 編成年月日
 昭和三十九年二月二十五日 陸軍中尉一〇〇号 昭和三十九年九月九日 臨時編成
 昭和三十九年六月七日 軍令陸甲五八二條 昭和三十九年九月九日 臨時編成

所屬部隊
 作戰經過、概要
 昭和三十九年三月二十五日 昭和三十九年八月二十五日 昭和三十九年八月二十五日 昭和三十九年八月二十五日
 昭和三十九年八月二十五日 昭和三十九年八月二十五日 昭和三十九年八月二十五日 昭和三十九年八月二十五日

終戦(又ハ主力)
 昭和三十九年八月二十五日 停戦協定
 昭和三十九年八月二十五日 停戦協定
 昭和三十九年八月二十五日 停戦協定
 昭和三十九年八月二十五日 停戦協定

歸郷(又ハ連絡)先
 山口縣

其他ノ参考事項
 昭和三十九年八月二十五日 昭和三十九年八月二十五日 昭和三十九年八月二十五日 昭和三十九年八月二十五日

備考
 昭和三十九年八月二十五日 昭和三十九年八月二十五日 昭和三十九年八月二十五日 昭和三十九年八月二十五日

戦史資料

陸軍

一、部隊名 独立混成第五旅團高射砲隊

部隊履歴、概要

○昭和十九年三月十四日 高射砲第三五聯隊、第二大隊本部、

第五中隊(高射砲中隊)、第九中隊(暹羅中隊)トネケ島

ニ上陸ス

○昭和十九年四月二十日 同第三中隊(高射砲中隊)トネケ島

ニ上陸ス

○昭和十九年六月三日 軍令陸甲第五八号ニ據リ 高射砲第三五

聯隊 第二大隊本部、第三中隊、第五中隊、第九中隊ニ

復帰下令、同日 臨時編成(改正)下令セシ、六月七日

復帰完結、同日 独立混成第五旅團高射砲隊ノ

臨時編成(改正)ヲ完結ス、編成左記ノ如シ

記

本部一、高射砲中隊三(第三中隊欠)、暹羅中隊一、

○昭和二十年五月十五日 新ニ第三中隊 編成セラル

部隊長名

櫻井 友吉

一、指揮隷屬關係及其変遷ノ概要

○昭和十九年三月二十四日 トネケ島上陸ト同時ニ第五十二

師団長ノ指揮ニ入ル

○昭和十九年六月七日 臨時編成改正ニ據リ 独立混成第五

五十二旅團長ノ隷下ニ入ル(指揮關係ハ従前ニ通シ)

○昭和二十年八月二十五日 終戦ニ伴ヒ 第五十二師団長ノ指揮

ヲ脱ス

一、参加セル主要ナル作戦(戦斗)ノ概要

(納谷典・東京)

陸軍

自昭和十九年三月二十五日
至昭和二十年八月二十五日
第二次——第九次トラスノ島附近ノ戦
斗ニ参加

死傷 戦死 七

戦傷死 =

戦病死 五七

戦傷 三

損耗 ナシ

給養 昭和二十年一月頃ヨリ現地自活シ主体トシ極メテ
粗悪ナル給養トナレリ

衛生 戦争ニ余養食調症続出セテ特記事項
ナシ

一、終戦ヨリ飯還迄ノ行動ノ概要

兵器、被服ノ返納ヲ終リ、現地自活並ニ島内清掃ニ
従事ス

戦史資料

陸軍

一部隊名 独立混成第五旅團高射砲隊

部隊履歴、概要

○昭和十九年三月十四日、高射砲第三十五聯隊、第二大隊本部、第五中隊(高射砲中隊)、第九中隊(照空中队)トネケ島ニ上陸ス

○昭和十九年四月二十日 同第三中隊(高射砲中队)トネケ島ニ上陸ス

○昭和十九年六月三日軍令陸甲第五八号ニ據リ高射砲第三十五聯隊第二大隊本部、第三中隊、第五中隊、第九中隊ニ復帰下令、同日臨時編成(改正)下令セラレ、六月七日復帰完結、同日独立混成第五旅團高射砲隊ノ臨時編成(改正)ヲ完結ス。編成左記ノ如シ

記

本部一、高射砲中队三(第三中队欠)、照空中隊一、

○昭和二十年五月十五日 新ニ第三中队 編成セラル

部隊長名 櫻井 房吉

一指揮隷属関係及其変遷ノ概要

○昭和十九年三月二十四日、トネケ島上陸ト同時ニ第五十二師団長ノ指揮ニ入ル

○昭和十九年六月七日 臨時編成改正ニ據リ 独立混成第五旅團長ノ隷下ニ入ル(指揮関係ハ従前通リ)

○昭和二十年八月二十五日 終戦ニ伴ヒ第五十二師団長ノ指揮ヲ脱ス

一参加セル主要ナル作戦(戦手)ノ概要

陸軍

自昭和十九年三月二十五日
至昭和二十年八月二十五日 第二次—第九次アトラス島附近ノ戦
斗ニ参加

死傷 戦死 七

戦傷死 二

戦病死 五七

戦傷 三

損耗 ナシ

給養 昭和二十年一月頃ヨリ現地自活ヲ主体トシ極メテ

粗悪ナル給養トナリ

衛生 戦中栄養失調症続出セテ特記事項

ナシ

一終戦ヨリ飯還迄ノ行動ノ概要

兵器、被服、返納ヲ終リ、現地自活並ニ島内清掃ニ

従事ス

一、部隊名及部隊履歴ノ概要、部隊長名

独立混成旅団高射砲隊

高射砲隊ヲ二十五聯隊(昭和七年六月一日創立)

陸軍中佐 根岸主計

新徳実徳

昭和十九年二月二十五日動員

独立混成旅団高射砲隊(昭和十九年五月五日編成)

陸軍中佐 櫻井房吉

一、指揮隷屬關係及其變遷ノ概要

昭和十九年二月二十五日動員ト同時ニ新徳中佐ニ指揮

ヲ離シテ四艦隊司令長官ニ指揮ニ屬ス、昭和十九年五月

五日編成改心ニ依リ獨立混成旅団長伊集院

少將ニ隷屬トスル

一、参加セル主要ナル作戰(戦斗)ノ概要、死傷損耗

20.2.17 第 課

才三次、才九次トシテ附近ノ戦斗ニ参加、死傷損
耗トシ

一給養衛生

トシテ島上陸以來保有糧食欠乏ニ現地自活困難
氣候激変早ニヨリ給養ノ漸次低下昭和十九年十月
頃ヨリ二十年六月頃迄向ニ戦争栄養失調症ヲ
死セタル者約百名ニ達ス

一終戦ニ帰還マシノ行動概要

終戦後ハ兵器集積作業現地自活作業陣地
破壊作業道路修築作業等ニ従事、昭和二十年
十月三十日乗船帰還ス(海防艦奄美ニ乗ル)

一其他部隊陸中特異ト認マラル事項
ナシ

昭和十六、十一、奉陸納

1110

0412

181

トラツ

陸上陸地支局 (昭和二十年十二月八日)

史實調査参考資料報告

所在地	南洋群島トラツノ島	職官	陸軍中尉
所属部隊	特濃五上旅高射隊	氏名	今井五郎七郎
支那事変	昭和十九年十一月二日現役入隊	終戦時モ	ノヲ記ス。
従軍状況	昭和十七年十一月一日陸軍少尉今日第備没	職変更及	主ナル参加
自己略歴	昭和十九年九月十五日陸軍中尉	戦斗名ヲ	記ス。

所屬部隊	第一中隊 野山砲 七 立射砲 三	最後、所屬	部隊ヲ主ニ
	第二中隊 高射砲 三		シ尚其ノ以
	第三中隊 野山砲 六 擧筒砲 三		前ノ所屬部
	第四中隊 照心砲 燈 六 燈 六 檣		隊ノ分ヲモ
備 概要	昭和十九年六月七日 剣立	概記ス。	

所屬部隊	第三次トヲツノ島		
作戦経過	附近ノ戦斗ニ参加ス		
概要			

終戦(又主)	現地自活、環境整頓ニ	帰還輸	
夕戦(終了)	従リス。	送ノ状況	
後、状況	昭和二十年十一月三日乗船十二月	ヲ併記	
	十日浦加貝ニ到着ス		

歸郷(又連)	大分縣		
終戦			
其他ノ参			
考事項			

後拾分一校

浦賀上陸地支局

(昭和二十年八月)

史實調査参考資料報告

摘要

所在地	南洋群島トク島夏島	職官	陸軍中尉 佐田信雄	終戦時ノモ ノヲ記ス。	
支那事変以降ニ於ケル自己略歴	<p>昭和十七年一月十日現役入隊 昭和十八年十一月一日陸軍少尉同日予備役 昭和二十年八月二十日陸軍中尉 第三次ノ第九次トヲノ附近島中ニ参加</p>				職變更及 主ナル参加 戦斗名ヲ 記ス。
所屬部隊 編成年月 日編制裝 備概要	第一中隊 第二中隊 第三中隊 第四中隊	高射砲三 高射砲三 榴霰砲三 照空燈六	野山砲七 野山砲六 野山砲六 聽音機六	<p>昭和十九年六月七日創立</p> <p>最後、所屬 部隊ヲ主ニ シ尚其ノ以 前、所屬部 隊ノ分ヲモ 概記ス。</p>	
所屬部隊 作戰經過 概要	<p>第三次ノ第九次トヲノ附近ノ戦斗ニ 参加、死傷損耗十七</p>				
終戦(又主 ノ戦手終了) 後、状況	<p>現地自活、陣地破壊作業、道路修築作業等 に従事、昭和二十四年十一月二十日乗船、浦賀ニ 到着ス。</p>				帰還輸 送ノ状況 ヲ併記 ス。
歸郷(又、連 絡先)	<p>愛知縣</p>				
其他、参 考事項	<p>十九</p>				

トヲノ

上陸地支局

史實調査参考資料報告

(昭和二十年十二月八日)

摘要

所在地

南洋群島トビ島支局

職官

陸軍中尉

所属部隊

陸軍機務隊

氏名

植野順平

終戦時モ
ヲ記ス

支那事變
以降ニ於ケル
自己ノ略歴

昭和二十一年一月十日 現役入隊
昭和二十一年十一月一日 陸軍少尉同日予備役編入
昭和二十一年八月十日 陸軍中尉
中三ノ次ノ中九ノ次トシテ附随戦中ニ参加

職變更ニ
主ナル参加
戦斗名ヲ
記ス

所属部隊

第一中隊 高野砲三
第二中隊 高野砲三
第三中隊 高野砲三
第四中隊 高野砲三
第五中隊 高野砲三
第六中隊 高野砲三
第七中隊 高野砲三
第八中隊 高野砲三
第九中隊 高野砲三
第十中隊 高野砲三

最後ノ所属
部隊ヲ主ニ
シ尚其ノ以
前ノ所属部
隊ノ分ヲモ
概記ス

所属部隊

作戦經過
ノ概要

中三ノ次ノ中九ノ次トシテ附随戦中ニ参加
中三ノ次ニ参加

終戦(又主
力ノ戦中終
後ノ状況)

現地自任作業ニ従フ
昭和二十一年十一月三日 奄美ニ乗船
捕虜ニ到着

帰還輸
送ノ状況
ヲモ併記
ス

歸郷(又連
絡先)

富田山縣

其他ノ参
考事項

十二

史實調査参考資料 報誌

靖西支

所在地 南洋トウワラ島

職官 陸軍大尉 田中清

終戦時ノ
モリヲ記ス

折尾海軍駐留支隊

氏名 田中清

終戦時ノ
モリヲ記ス

支隊員
以降ニ於テ
自己必死
覚悟アリ

白馬山ニ於テ
自決スル
昭和二十年一月
南洋トウワラ島
駐留中隊長

職、変更
及主ナル
戦時ノ
ヲ記ス

所屬部隊

昭和二十年六月三日

終戦前所屬
部隊ノ前
其ノ後所屬
部隊ノ分
ヲ記ス

日及
裝備
概要

特設隊下ニ二二名
四ノ隊一ニ動行

終戦前所屬
部隊ノ前
其ノ後所屬
部隊ノ分
ヲ記ス

所屬
部隊
作戦
経過
概要

特設隊員ノ
トウワラ島
陣地構築
トウワラ島
陣地構築
トウワラ島

終戦時ノ
モリヲ記ス

終戦時ノ
状況

終戦時ノ
状況

終戦時ノ
状況

帰郷
(又は連絡)

終戦時ノ
状況

終戦時ノ
状況

その他

終戦時ノ
状況

終戦時ノ
状況

史書調査参考資料報告

摘録

所在地	南洋「トク」島	隊附	陸軍中尉	松	戦時中 日記
支那軍支隊 以降ニ於テ 自己略歴	昭和十八年十二月一日任陸軍中尉 自昭和十九年三月二十五日 至八月二十五日第二次第九次 トク島附近ノ戦斗ニ参加	昭和十九年六月三日	得校以下二二名	四小隊一眷持方隊	最後所屬部隊ノ記述尚 其以略歴ノ所 屬部隊ノ分 ヲ記ス
所屬部隊 編成 日及編制 裝備 概要	旅団工兵隊トシテ トクノ諸島七曜島ニ在リテ 主トシテ陣地構築作業ニ従事	終戦後主トシテ島内清掃作業ニ 従事	終戦後主トシテ島内清掃作業ニ 従事	帰還輸送 ノ状態ヲ 併記ス	
新属 部隊 作戦 経過 概要	福島縣	ナ	ナ	ナ	ナ
終戦後 主トシテ 島内清掃 作業ニ 従事	福島縣	ナ	ナ	ナ	ナ
帰郷 先 父(連綴)	福島縣	ナ	ナ	ナ	ナ
その他 参考	ナ	ナ	ナ	ナ	ナ

関東上陸地支部

(昭和二十一年一月六日)

史官調査参考資料報告

橋田世

所在地 南洋トラコ島	支那軍支隊 以降至於 自己略歴	所屬部隊 編成年月 日及編制 裝備 概要	職歴 変更 モロウ記ス
所屬部隊	自昭和二十一年七月一日起至同年八月十一日敵艦隊軍艦長、昭和二十一年職歴、支那軍支隊、以降至於、自己略歴	職歴、変更、モロウ記ス	終戦(又ハ主力戦)後ノ状況
終戦(又ハ主力戦)後ノ状況	戦後、主として島内清掃作業に従事	帰還輸送ノ状況ヲモ併記ス	備考 (又ハ連絡)
備考 (又ハ連絡)	トラコ島諸島及幌島ニ在リテ主として陣地構築作業に従事	備考	その他
その他	トニ	備考	備考

0418

関東上陸地支局

(昭和二十一年十一月七日)

史実調査参考資料報告

均母

所在地	南洋群島トランク島	隊軍区大尉	均母
支那軍事支隊	昭和二十一年四月一日陸軍省支隊 昭和二十一年三月三日南海軍支隊 昭和二十一年十一月十五日陸軍省支隊 昭和二十一年三月三日陸軍省支隊 昭和二十一年三月三日陸軍省支隊	大尉	均母
所屬部隊	昭和二十一年六月二日	均母	均母
所屬部隊	トランク島	均母	均母
作戦経過	右トランク島	均母	均母
概要	均母	均母	均母
終戦(又ハ主力戦)	均母	均母	均母
戦後状況	均母	均母	均母
備考	均母	均母	均母
その他	均母	均母	均母
備考	均母	均母	均母
備考	均母	均母	均母

史實調査參考資料 報告

所在地

トラウク島

支局長

福圓通信隊長 大尉

支局長

支隊

獨混五士旅團

支隊長

齊藤 敬一郎

支隊長

支隊

支隊

支隊長

支隊長

支隊長

支隊

支隊

支隊長

支隊長

支隊長

支隊

支隊

支隊長

支隊長

支隊長

支隊

支隊

支隊長

支隊長

支隊長

支隊

支隊

支隊長

支隊長

支隊長

支隊

支隊

支隊長

支隊長

支隊長

支隊

支隊

支隊長

支隊長

支隊長

支隊

支隊

支隊長

支隊長

支隊長

支隊

支隊

支隊長

支隊長

支隊長

支隊

支隊

支隊長

支隊長

支隊長

支隊

支隊

支隊長

支隊長

支隊長

支隊

支隊

支隊長

支隊長

支隊長

支隊

支隊

支隊長

支隊長

支隊長

支隊

支隊

支隊長

支隊長

支隊長

支隊

支隊

支隊長

支隊長

支隊長

支隊

支隊

支隊長

支隊長

支隊長

支隊

支隊

支隊長

支隊長

支隊長

支隊

支隊

支隊長

支隊長

支隊長

支隊

支隊

支隊長

支隊長

支隊長

支隊

支隊

支隊長

支隊長

支隊長

支隊

支隊

支隊長

支隊長

支隊長

支隊

支隊

支隊長

支隊長

支隊長

支隊

支隊

支隊長

支隊長

支隊長

支隊

支隊

支隊長

支隊長

支隊長

支隊

支隊

支隊長

支隊長

支隊長

支隊

支隊

支隊長

支隊長

支隊長

支隊

支隊

支隊長

支隊長

支隊長

關東上陸地支局

(昭和二十一年一月七日)

史實調査參考資料 報告

精 敏

所在地	トリスノ 南浦水曜島 獨立混成第五旅團	職官	無線小隊長 陸軍中尉	水野清	支隊 支隊 支隊
支隊	支隊 支隊 支隊	支隊	支隊	支隊	支隊
支隊	支隊	支隊	支隊	支隊	支隊
支隊	支隊	支隊	支隊	支隊	支隊
支隊	支隊	支隊	支隊	支隊	支隊
支隊	支隊	支隊	支隊	支隊	支隊
支隊	支隊	支隊	支隊	支隊	支隊
支隊	支隊	支隊	支隊	支隊	支隊
支隊	支隊	支隊	支隊	支隊	支隊
支隊	支隊	支隊	支隊	支隊	支隊
支隊	支隊	支隊	支隊	支隊	支隊